

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：保育園フェリチッタ	種別：認可保育所
代表者氏名：太田 結衣	定員（利用人数）： 30名（28名）
所在地：〒212-0016 神奈川県川崎市幸区南幸町2-76	
TEL：044-544-5033	
ホームページ：https://www.hibambina.jp/felicitta	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成20年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ばんびーな	
職員数	常勤職員： 10名 非常勤職員： 0名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：6名 栄養士：1名
	看護師：1名 子育て支援員：2名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：2 トイレ：児童用トイレ3 多目的トイレ1 調理室：1 事務室：1
	（設備等）園庭：無

③理念・基本方針

<p>【運営方針】</p> <p>こどもを通してつながり合い、みんながともに育ち合える園</p> <p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちのありのままを愛する保育 ・こどもたちの一瞬一瞬を大切にする保育 ・こどもたちの生きる力を身につける保育 <p>【保育目標】</p> <p>■いのちをすこやかにほぐくむ</p> <p>十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。</p> <p>■愛するところを育む</p> <p>人との関わりの中で人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、協調の態度を養い道徳性の芽生えを培うこと。</p> <p>■豊かな感性を育む</p> <p>様々な体験を通して豊かな感情を育てて、創造性の芽生えを養うこと。</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

- 給食にこだわり、全て手作りが基本です。無農薬・有機野菜を中心に、日本の四季にあったこだわりのメニューで心身ともに健康に恵まれるよう願っています。おやつも市販のものではなく毎日調理室で手作りをしています。
- 午前の保育内容は外遊びが中心です。園庭はありませんが、近くの公園まで散歩をします。交通ルールを学んだり、安全に気をつけながら楽しく身体を動かし強い身体作りを支えています。
- 『アートワーク』という表現活動の時間があります。リズム遊びをしたり、お絵描きをしたり、制作物を作ったりしています。かたちを作るのが好きな子、お絵描きが好きの子、歌が好きの子、踊りが好きな子、自由に走るのが好きな子、ゲームが好きの子など。子どもたちのいろいろな個性を尊重して、のびのびとした子どもに育ててほしいという思いがあります。
- 「ばんび農園」畑の活動があります。野菜の世話をしたり収穫を楽しんだりするだけでなく、畑には虫や草花・木の実との出会いがあり、土を触っているだけでも五感が刺激されます。時には保護者の方にも参加していただき保育園と家庭とのつながりの場になることをねらいとしています。
- 就学前プログラム「サークル」があります。年長児クラスでは、アートワークの時間以外に年長児だけの時間を設けています。はじめは自分の意見を皆の前で相手に伝えること。そして、相手の話を聞くことから「サークル」はスタートしています。近隣園との年長児交流会や小学校との交流会にも積極的に参加していて、就学に向けた連携も大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年9月10日（契約日）～ 令和4年3月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)ともに育ちあえる保育の実践

園は1～5歳児クラスまで、30名定員の小規模保育園です。1、2歳児、3～5歳児は異年齢で活動をしています。日々自分より年上、年下の子どもとの生活や活動を通して年下の子どもへのいたわりや遊びの展開の多様化といった、同一年齢の保育では得られないさまざまな側面からの育ち合いがあります。また、その中でも個人が尊重され、安心して過ごせるよう職員は必要に応じてフォローし、情緒を支えており、運営方針である「みんながともに育ちあえる園」の実践に努めています。加えて、子どもの表現活動のため「アートワーク」ではそれぞれの年齢に合った作り方をしたり、年長児は、就学前プログラム「サークル」で年長児だけの時間を設けるなど、同年齢での育ちも大切に考えた保育を提供しています。

2)「食」へのこだわり

子どもの成長発達に不可欠な「食」にこだわり、給食・おやつは手作りで、献立は旬の食材（無農薬・有機中心）、季節ごとの年中行事、和・洋・中のバランスなども考慮しながら調理しています。食事には郷土料理や世界の料理も登場します。また、子どもたちの園生活の1日の流れの中で、食事に入るまでの生活リズムを大切にしているほか、3～5歳児クラスは当番活動をしたり、感染症対策をしながら、トウモロコシの皮むき、ドーナツ作り、麩のラスク作りなどクッキング体験をしたり、法人の農園でさつまいも

を収穫するなど、子どもたちは楽しみながら「食」への興味関心を育んでいます。

3) 職員の働きやすい環境整備

園では法人の協力により、人材の確保、育成を課題とし、対策に取り組んでいます。人材の確保としてはオンライン面接を取り入れ、地方の学生の面談の機会につなげています。職員には環境整備を行い、産休後の希望による復職、職員専用の保育園を園内に設置して復職を支援しています。感染症で通勤に不安な人には、自転車通勤支援や近隣のホテルに部屋を用意するなど、職員の働きやすい環境に配慮しています。大切な職員の定着のための福利厚生充実にも力を入れています。

◇改善を求められる点

1) 職員個人毎に必要な研修の明確化と受講促進

ICT導入などにより人材育成のための研修機会を確保するなど取組を行っています。長引くコロナ禍のなか必要な研修を自ら判断することが難しい状況です。新人も含め一人ひとりの経験、知識、目標等に対して必要な研修を明確にし、研修計画に沿って時間確保などを行い指導していくことが期待されます。

2) 第三者委員など体制の周知

日頃より、保護者との信頼関係構築に注力し、些細なことでも丁寧な対応に努めています。しかし、苦情解決の体制については入園時の説明以後、取り上げて説明をする機会がなく、寄せられた苦情や意見の解決のための第三者委員の仕組みについても十分に周知をしていくことが課題となっています。今後のさらなる周知が望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度第三者評価を受審したことは大変学びが多く、今後の道標を明確にすることができました。

例えば、この機会に職員全員で自園の保育を振り返る時間を改めて設けたことで、各々が新たな課題に気が付くことができ、新年度に向けての志が高まっています。そうした職員たちの向上心を大切に汲み取り、評価結果にもあった通り研修への受講促進を積極的に行うことで個々のスキルアップに繋げていきたいと思っています。保育士一人一人が持っている力を惜しみなく日々の保育に反映し、子どもたちにより豊かな遊び・経験・学びを提供できるよう保育士一同精進してまいります。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり